



# 「ささえ～る」

広報委員会

※『ささえ～る』とは、「佐々木」・「ささえる」・「エールを送る」の意味を込めた造語です。



作業療法  
作品展



理事長・院長

菊野 恒明

皆様にはつつがなく新年をお迎えのことと存じます。

佐々木病院は昭和44年12月10日、故佐々木重行先生によって開設されました。今年で44年目を迎えます。当時は学園紛争が全国で起こり、荒れていた頃です。紛争の発端は東大の赤レンガ、精神科の医局での問題でした。精神科医療が大きく混乱していた時代でもありました。そういう世相と佐々木重行先生が病院の開設を決意されたことと関係があったかどうかは分かりません。おそらくあったと思います。

ちょうどその頃、私は医学部の2年生でし

た。今、佐々木病院に勤めて、来し方をふりかえり、しみじみとした思いです。「なぜ精神科を選んだのか？」とよく聞かれます。本当は医史学に興味があったのです。しかし、医史学では食べていけないだろうと、次善の選択をしたのです。我が国の精神科医療の未来がどのようなものになるのかには判断はつきませんが、当佐々木病院も職員も知恵を結集して生き残りはかつていきたいと思ひます。

今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。皆様にとって良い年でありますようにと祈っております。

## 新任副院長の紹介

川村 剛 (かわむら つよし) 精神保健指定医



昨年11月より赴任いたしました川村と申します。新潟大学を卒業後、新潟県内で15年ほど精神科医をしておりました。このたびご縁がありまして、佐々木病院に勤務することになりました。どうぞよろしく願いいたします。小矢部市から、北陸自動車道を利用して通勤しております。晴れた日には、雪の立山連峰に癒されながら通勤しております。

まだ慣れないことも多く、手順の違いなどにも戸惑う日々が続いておりますが、院長先生をはじめスタッフ皆さんに支えられて診療に集中することができております。社会復帰を目指し、新しい薬物治療が導入され、立派な社会復帰施設を擁し、よく気の利く親切で丁寧なスタッフばかりが揃っていることに大変驚いております。こうした診療資源を最大限に活用して、患者さんの要望に応えていけるように精進を重ねなければと考えております。

### ～ プロフィール ～

経歴	新潟大学 医学部卒
専門分野	精神医学一般
資格	医学博士、精神保健判定医 日本精神神経学会専門医・指導医 精神腫瘍学の基本教育に関する指導者
治療理念	多職種から情報を集め、多角的に評価し、最適な治療を提供する。
目標	社会的要請に応えられる精神医療を提供する。
趣味	旅行、料理
ひと言	“温故知新”“良薬口に苦し、忠言耳に逆らう”を忘れず、精進したいと思います。

## アンダンテ2周年／フィールド・ラベンダー10周年特別講演会 平成24年12月3日



【講演者】水野スウさん

4年前に小さな小さなグループから出発したデイケアの家族会ですが、12回目を迎えた今回、アンダンテ2周年／フィールド・ラベンダー10周年を記念し、エッセイで「紅茶の時間」主宰、コミュニケーション・ワークショップ

水先案内人の水野スウさんをお招きして特別講演会を開くことができました。

当日は入院患者様のご家族から地域の方まで、約40人の方にお越し頂き、スウさんの言葉や醸し出されるゆつたりとした雰囲気を一緒に味わうことができました。

講演の中で特に印象に残ったことは「DO」ではなく「BE」ということ。何かを成し遂げなければ認められない存在(DO)ではなく、人は誰も今ここにいること(BE)だけでも貴重なのだ、ということを経験の中で忘れかけてはいませんか、という問いかけにはっとしました。スウさんや参加された皆様から、エネルギーを頂いた気がします。ありがとうございました。

アンダンテ主任 高松

### フィールド・ラベンダー10周年を迎えて

施設長 高松哲也

このたび、フィールド・ラベンダーは施設を開設して10周年を迎えることができました。これもひとえに地域を始め利用者さんや関係者の皆様のご支援・ご理解のおかげと、深く感謝いたします。

カタカナで斬新なネーミングに当初、違和感を感じた方も多いと思いますが、その言葉の裏には、「心の風邪をひいた人が利用しやすいよう、あえて施設っぽくない名前」という配慮があります。そんな中、平成14年4月、「癒しのフィールド」を目指して開設され、当初は利用者4名からスタートしました。試行錯誤を重ね、徐々に地域からの相談も増え、おかげさまで今では毎日平均約50名の方が利用される施設となりました。

今後もフィールド・ラベンダーは20年30年と年輪を重ね、皆様からより必要とされるような施設を目指して努めていきたいと思えます。

今後共どうぞよろしくお願いたします。



## 演奏会『アイルランドの風』

秋も深まる 11 月、佐々木病院にアイルランドの伝統楽器の美しい音色が響き渡りました。全国で活動している「アイルランドの風」こと守安夫妻を招いての演奏会が行われたのです。

お二人は 1 年の 3 分の 1 をアイルランドで過ごし、現地の演奏家と共に伝統音楽・楽器を広められておられます。そのような方々の演奏に生で触



れることができたことは本当に貴重なことでした。

演奏会では、患者様方は初めて目にする楽器の珍しさに目を輝かせ、初めて耳にする音色に聞き入っ

ておられ、一曲ごとに大きな拍手が巻き起こりました。守安夫妻の演奏と巧みな話術に聴衆はどんどん引き込まれ、リクエストに応じて即興で弾かれた馴染みの音楽で会場が一つになっていく様子は本当に圧巻の一言でした。



音楽療法的な活動に力を入れている当院においても、近年稀に見るほどに深く感動させられる演奏会であったと感じています。再びこのような機会が得られることを心より願っています。



## 一般 X 線撮影装置リニューアルに伴い 画像診断システムと読み取りユニット導入

平成 24 年 11 月、長年使用していた一般 X 線撮影装置をリニューアルしました。それに伴い、「画像診断システム」と「読み取りユニット」も同時に導入いたしました。今まで、フィルムを利用していましたが、今回のシステム導入によりフィルムレス化を実現いたしました。

今後、患者様を紹介する際、必要に応じて画像データを提供することが可能になりました。また、

## クリスマス会

平成 24 年を締めくくる行事として行われたクリスマス会。サンタとトナカイに扮した司会者が進行する中、多種多様な発表が会場を明るく盛り上げていました。患者様による“大喜利”、“紙人形劇”、“楽器演奏”、“ビデオドラマ”はそれぞれに趣向が凝らされており、見ている人を飽きさせませんでした。皆さん、緊張しながらもステージに上がっておられ、



発表に向け練習した成果を発揮していました。その後に行われたクイズ大会では、そこに入る全員がわくわくしながら参加し、見事景品を手にした人も、そうでない人も笑顔を見せていました。外の寒さを吹き飛ばすような熱気にあふれた楽しい会になったようです。



皆様にとって、平成 24 年はどんな一年だったでしょうか？私共は夏の七夕に続いて大きな行事を成功させることができうれしく思っております。春にはひな祭り会を開催する予定です。皆さんの思い出に残る楽しい行事を企画していきたいと考えています。

療法委員会 清水



他施設から持参された画像データを一元管理することも可能になりました。

今後、更なる業務の効率化を図り、患者様の利便性向上につなげていきたいと考えております。



## 防火防災防犯委員会の取り組み

この委員会は、佐々木病院および隣接施設アンダンテ、フィールド・ラベンダーの防火・防災・防犯のために設けられたもので、当院から4名、アンダンテから1名、フィールド・ラベンダーから1名で構成されています。

活動内容としては、主に春季から秋季にかけて行う防火訓練(年2回)と、防火・防災設備や器具の点検ならびに当院や隣接施設スタッフへの指導、消防署からの監査立ち会いを行っています。

最近では、アンダンテ独自で訓練を実施するなど委員会としての活動が少しずつ増えているものの、新入職員や学生の方々に対する防火・防災設備や器具の指導が、なかなか難しいのが現状です。



しかし、スタッフの皆様には、日頃から防火や防災の意識を持って頂き緊急時の対処について把握して貰いたいと思っております。今後とも当委員会に、ご協力頂けますようお願いいたします。

防火防災防犯委員会 村上

## 永年勤続表彰伝達式



平成25年、仕事始めに際し、日本精神科病院協会永年勤続表彰と富山県医師会永年勤続医療従事者表彰伝達式が行われました。



表彰された方々、本当におめでとうございませう。今後ますますのご活躍をお祈りいたします。



### 日本精神科病院協会 永年勤続 表彰

- ・五十嵐さん(看護師)
- ・高橋さん(指導員)

### 富山県医師会 永年勤続医療従事者 表彰

- ・浜松さん(看護師)
- ・村上さん(指導員)

## 作業療法課の紹介

精神疾患により生活に困難さを感じるの方々に対して、普段、人が生活の中で行う諸活動『作業』(食事・睡眠・遊び・身だしなみを整える…等々)により回復を目指す治療のことを作業療法といいます。そのため、治療を治療として気づかないうちに治療しているところが作業療法のメリットです。

当院では個別あるいは集団で、手工芸、音楽・映画鑑賞、リクレーションなどの活動を主に行っています。作業療法に参加することで、お薬だけでは解決できない生活上の様々な悩み事や困難な事に立ち向かえるようになり、その人にとってより良い生活や、力を最大限に発揮できるようにお手伝いをしています。



たとえば人によって目標は様々ですが、精神機能の向上、対人関係能力の改善、作業能力の改善、生活にメリハリをつける…などが挙げられます。

作業療法の場を上手に利用して、生活を豊かにするために必要な能力を身につけたり、生活の中での楽しみを見つけてはいかがでしょうか。

作業療法士 坂本



### 編集後記

新しい年を迎え、わくわくしております。昨年は、佐々木病院にとって大きなターニングポイントとなる重要な一年だったように思います。今年は、さらなる飛躍のため、質の向上に努め、地域から信頼される病院を目指し職員一同がんばってまいります。広報委員会として、広報活動を通し、少しでも当院を知っていただけるよう努めてまいりますので、今後ともよろしくお祈りいたします。

広報委員会 吉田

### 医療法人社団 重仁 佐々木病院

住所 〒939-8073 富山県富山市大町1番地  
電話 (076)425-2111 / FAX (076)425-2112  
ホームページ <http://www.sasakihp.or.jp/>

精神科デイケア・精神科デイナイトケア

### アンダンテ

電話 (076)423-2114(直通)

指定障害福祉サービス事業所・地域生活支援事業所

### フィールド・ラベンダー

住所 〒939-8073 富山県富山市大町3-4  
電話 (076)495-1555 / FAX (076)495-1666  
ホームページ <http://www.field-lavender.net/>